2018 Spring Tokyo Digital History Symposium

Introduction　小風尚樹

情報化の波は歴史研究の世界にも押し寄せてきている
これまでの歴史学の蓄積と対話しながら、この研究データの海を渡るにはどうしたら良いか
本シンポジウムでは、歴史研究が生み出されるまでのプロセスを4段階に分け
それぞれに関連する情報技術やツールおよび知識を整理し、具体的な研究実践例を提示する
歴史研究におけるDigital Humanitiesの可能性を探る画期的なシンポジウムとなるだろう

Section 1　情報の入手 | Chair　清原和之

歴史研究に必要な史資料は大量のデータとして入手できるようになった
アーカイブズ学の知見を活かし情報入手の作法を考察する

Section 2　情報の分析 | Chair　橋本雄太

入手した大量のデータをどう理解すればいいか
データ解析技術を活用して多面的な情報分析の手法を探る

Section 3　情報の表現 | Chair　宮本隆史

分析で得た気づきや成果をどうわかりやすく表現すれば良いか
視覚的なイメージも含めて多彩な情報表現の可能性を探る

Section 4　情報の公開 | Chair　中村覚

研究の基礎データは他の研究者による二次利用を促す形式で共有されるのが望ましい
検証可能性やデータ再利用の観点から情報公開のあり方を学ぶ

Date
2018/04/15 (Sun) 13:00〜18:00

Venue
東京大学本郷キャンパス
経済学研究科学術交流棟
小島ホール1階　第2セミナー室

Participation Form
定員は50名程度になります
下記から事前申込をお願いします
https://goo.gl/forms/9EDiVmGQqDSwPAxw2

Fee
参加無料

WiFi
eduroam, UTokyo WiFi / Guest

Contact Us
tokyodigitalhistory@gmail.com
Twitter　@DHistory_Tokyo

Supported by
Historians' Workshop
東京大学人文情報学拠点
国立歴史民俗博物館
　メタ資料学研究センター
図書出版 文学通信

Outline and Keywords of the Main Section

PROCESS

01 情報の入手
渋沢栄一記念財団デジタル・キュレーター
金甫榮 | アーカイブズ学
デジタル・アーカイブの多義性 / アーカイブズ理論
デジタル時代に史料とどう向き合うか

02 情報の入手
東大日本史D3
福田真人 | 近代日本貨幣史
公文録 / 史料群の階層 / Webスクレイピング
巨大な史料群のデータを一括入手する

03 情報の分析
東大経済史D3
山崎翔平 | 近代日本経済史
府県パネルデータ / Python / Stata
データ加工の再現性を担保する

04 情報の分析
東大西洋史M2
小川潤 | 古代ローマ属州史
Perseus Digital Library / 古典語テキスト解析
テキスト群から語の使用傾向を分析する

05 情報の表現
お茶大西洋史D1
山王綾乃 | 近世フランスアカデミー史
会員名簿 / データ可視化 / Tableau
統計データの表現方法を探索する

06 情報の表現
東大西洋史M2
小林拓実 | 近代フランス移民史
Indicateur Marseillais / GIS / CCライセンス
歴史地図にデータを可視化する

07 情報の公開
東大西洋史D3・歴博研究協力者
小風尚樹 | 近代イギリス外交史
延喜式 / データベース構築 / TEI
デジタル技術で分野を越境する

08 情報の公開
東大西洋史D3
櫻田宗紀 | 中世教皇史
Regesta Imperii / 年表・地図
データの活用から公開までを展望する

Panel　デジタル・ヒストリーの可能性 | 菊池信彦　後藤真　崎山直樹